

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893700025
法人名	社会福祉法人伊方社会福祉協会
事業所名	グループホーム三崎つわぶき荘
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町三崎4414番地1
自己評価作成日	平成27年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三崎つわぶき荘の前には宇和海が広がり、晴れた日には九州を遠望できます。ホールに座りのんびりとこの景色をながめっていると自然と心が落ち着いて、ご利用者の大好きな癒しの空間となっています。また2階に特養を併設しており四季折々の行事やレク、クラブを合同で行い、楽しく過ごしていただいています。
施設全体として、介護力向上に取り組んでおり食事、運動、排泄の基本のケアを行うことで、認知機能の向上を図りできるだけ自立した生活を続けることができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年目を迎える地域密着型特別養護老人ホームに併設された事業所である。日本一細長い半島の佐田岬の小高い丘の上に建設され、海風が心地よく吹き通る位置に立地している。事業所からは瀬戸内海を一望でき晴れた日には九州を遠く望むこともできる。事業所は、愛媛県老人福祉施設協議会に加入しており、専門職としての知識に裏付けされた介護を実施できるよう努力している。管理者、職員は利用者の自立した日常生活が継続できるよう介護力向上をめざし、基本的ケアである食事、運動、排泄を重視し、認知機能向上に力を入れ支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム三崎つわぶき荘

(ユニット名) たんぽぽ

記入者(管理者)

氏名 井上 祥子

評価完了日 平成 27年 7月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 開設前に全職員で考えた理念を見直しして、新しい理念を作り、両ユニットの共有スペースに掲示している。『笑顔』『感謝』を大切に一人ひとりに合ったケアを実現できるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 認知症介護実践リーダー研修を受講した職員から理念の作り直しの提案があり、「穏やかに」「健やかに」「笑顔と感謝を忘れずに」を新しい理念として2つのユニットをつなぐ共用スペースに、利用者職員とも遠くからでも見えるよう大きな字で掲示し、介護力向上を目指し実践に生かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎月のホーム喫茶、茶道クラブ、生け花クラブでは地元ボランティアの方々に協力していただき実施している。運動会や文化祭、秋祭り等の地域行事に参加したり、高校生の職場体験や小中学生の来荘等を通じて交流を図っている。	
			(外部評価) 事業所内は、地元のお寺の奥さんや主治医の奥さんが茶道クラブのボランティアとしての活動であったり、また、玄関先には地元のボランティアで構成の活花クラブの活花が多数飾られており、地域の保育園の散歩の休憩所としても利用されている。また、小・中・高校生合同で行われる地域行事に参加したり、秋祭りは職員も地域住民の一員として参加しており、フェリー乗り場で行われる神輿のお練りは秋祭りの恒例で事業所にも寄ってもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 伊方町からの依頼を受け、介護相談員の研修会に『介護力向上の取り組み』と題して出前講座を行った。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催し、事業所の取り組みを報告したり、実際に行事等に参加してもらい、意見をいただいている。また、推進会議の委員に講師を依頼して認知症の勉強会を行った。	
			(外部評価) 運営推進会議に他の事業所の方に参加してもらうなど交流が図られており、行事計画や介護の取組み方など参考になっている。参加者に愛媛県認知症介護実践リーダー研修の講師がいるため、会議の中で認知症の勉強会等もできている。また、今月は職員も参加し地域包括支援センター職員による「不適切ケア」の勉強会も行っており、運営推進会議が職員の資質向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事故、ヒヤリハットは全て伊方町に報告し、助言をいただいている。運営推進会議の委員としてアドバイスを受けたり、疑問点等の相談をしている。また包括支援センターと連携を取り、ご利用者のこれまでの生活の様子などの情報提供をしていただき、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議参加者に町の担当者がおり、馴染みの関係はできている。困難事例などは、町担当者からあらかじめ今までの生活歴や利用者の家族の考え方などのアドバイスを詳しく教えてもらうなど、連携が取れており良好な関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止虐待防止委員会でチェックリストを作成し、毎月全職員が記入することにより、身体拘束をしないケアについての理解を深め実践に繋げている。	
			(外部評価) 身体拘束については、職員勉強会を開き身体拘束をしないケアの周知徹底ができており、玄関は手動で出入りは自由である。また、管理者は拘束廃止虐待防止委員会で作成したチェックリストにより、日頃から職員が身体拘束をしないケアができているか確認をしており、実践に向けての取組みはできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会、ユニット会を通じて介護をする上で、注意しなければならないことを話し合い、個々の介護を見つめ直している。また7月には伊方町の職員に依頼し『不適切ケアについて』と題して研修を行う予定である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の研修は実施していない。今後は講師を迎えて施設内研修を行い、知識を深める機会としたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前の調査時や契約時に時間を取り、ご家族、ご本人に対して説明を行い、入居の意向を決めていただいている。入居前にセンター方式を使用し、ご家族から情報を得ており、それをもとに入居後の生活を説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話等で日頃の様子を伝えたり、ご家族の意見や希望を伺っているが意見や希望は少ない。また正面玄関にご意見箱を設置している。 全員に家族会の会員になっていただき、年1回家族会を開き、ご意見を伺う機会としている。	
			(外部評価) 家族会は、併設の特別養護老人ホームと合同で年1回開催されている。運営推進会議には、利用者家族もメンバーとして参加しており、意見を言いやすい環境となっている。また、訪問調査当日も利用者の夫が面会に来て玄関ホールで新聞を読んでおり、日常の面会も家族からの意見が聞ける場となっている。玄関に意見箱を設置し家族からの意見等収集をしているが、現在のところ特に意見はないので、管理者は、利用者や家族からもっと意見や希望を引き出すことができるよう工夫をしていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回個人面談を行い、職員の思いや意見を聞いている。また職員会、リーダー会、各種委員会、ユニット会を開催し、様々な視点での意見や提案を聞き、反映させている。 (外部評価) 施設長と管理者は、年2回の個人面談で職員からの意見や希望を聞いている。また、職員は日常業務を振り返るために「チャレンジカード」を半年に1度記入し、管理者と一緒に確認している。職員が研修で学んだ支援内容などについては、職員会で提案の上業務に取り入れており、活花クラブは職員の意見により開始されたものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 希望者には正職員登用の機会を設け、意欲を持って働けるような環境の整備を行っている。また勉強会や研修会への参加を積極的に促し、向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修の情報を公開し、希望する研修に参加できるようにしている。また研修終了後は研修報告を行い、職員への周知を行っている。また職員の段階に応じてあらゆる機会をOJTとして利用し人材育成を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内事業所相互の運営推進会議へ参加し、交流や情報交換を行っている。また7月にはそうめん流しの行事に他事業所を招待する予定である。今後も事業所間の交流を前向きに検討している。	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面談時にご本人やご家族の思いを聞き取っている。また可能な方にはご家族に、センター方式を記入してもらい、思いや要望を伝えていただいている。また入居後は、日頃の様子をよく観察し、しっかり向き合い、ご本人の思いに耳を傾け、良い関係を築けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が入居前に見学に来られた際には、全職員がその場に立ち会い、困っていること、不安なこと、要望等について聞き取りを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の面談や担当ケアマネージャーからの情報により柔軟に対応している。入所申込時等に状況に応じて相談窓口（包括支援センター）の紹介や他のサービス利用について情報提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者と一緒に洗濯物干し、食事作り、お盆拭き等出来ることを手伝っていただき、共に暮らしているという気持ちで日々の関係を築いている。しかしご利用者間でトラブルが生じることもある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者がご家族に会いたい時には電話で話をしたり、面会にきていただくよう依頼している。毎月の広報でご利用者の生活の様子を報告すると共に、ご家族からも情報をいただきながら、ご利用者を一緒に支えるよう協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の希望に応じて、入居前に利用されていたデイサービスを訪問し、ご家族や知人との交流を図っている。また地元の行事には積極的に参加している。 (外部評価) 毎月3軒の美容院から出張美容に来てもらっている。またふるさと訪問として、今まで通っていたデイサービスを利用したり、受診時には職員と一緒に自宅に立ち寄りしたりしている。他にも音楽療法を週1回、活花クラブ、茶道クラブ、喫茶を月1回実施しており、地域の方もボランティアで参加している。日頃から介護相談員や地元の方が訪問されゆっくり話しをされるなど、地域及び馴染みの人や場所との関係が途切れないう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士で口論になることもあるし、居場所がなく歩き回る方もいる。ご利用者同士での関係作りが困難な場合は、意図的に職員が関わり、場面転換等を行い状況に応じた対応を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 殆どの退所者が法人内の特養へ入居されている。これまでの生活の様子や介護方法等を詳しく伝え、継続した支援が行えるよう連携をとっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話などから本人の思いや希望、意向の把握に努めている。対応が困難な場合は、24時間シートを活用し様々なサインを見つけ出せるよう努めている。 (外部評価) 入居時にセンター方式の24時間シートに記入してもらい、家族から思いや暮らし方の希望を聞いて把握している。入居後も面会時や電話等により聞き取りした内容は、事業所独自の調査票に記入し職員間で共有している。日常的に利用者のお話には耳を傾けるようにしており、「家に帰りたい、子供が待っている。」と言われる利用者等に対しては、職員が利用者の気持ちを尊重し対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の調査を活用し、その人の生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、ご本人の意向に添った支援を行えるよう努めている。また入居後は、日々の会話を通じてこれまでの生活の様子を伺い、馴染みの暮らしを提供できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録、申し送り、連絡ノート、モニタリング等を使用し、職員間での情報の共有と連携を図り現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) モニタリングを行うと共に、面会時や電話にてご家族の要望を伺っている。またご本人と話をしたり、普段の生活の中での課題について話し合い、ケアプランを作成している。毎月の受診時に主治医から助言を頂き、ケアに活かしている。ご家族の希望や意向を聞いているが、特にないと言われる方が多く課題である。 毎月の状況等をここに通信に掲載のうえ発送し、家族に喜ばれている。介護計画を作成する際には、利用者、家族、計画作成者、介護職員、栄養士とカンファレンスを行うようにしているが、利用者や家族からは「希望は特にない」「今のままでよい」「満足している」といわれることが多くなっており、計画作成者は「特にない」と言われることが課題であり打開策の必要性を感じている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ご利用者の日々の様子、ケアの実践等できる限り、ケース記録に詳しく書く事で、職員間での情報の共有ができており、介護計画の見直しの際に活かすようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 買い物やドライブといった屋外活動があまり出来なかった。今後は外に向けた活動を柔軟に行いたい。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の訪問美容サービスや茶道クラブ、生け花クラブ等地域の方達と協働し様々な行事を行っている。また地域の催し物の情報を得て参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 特養の嘱託医をかかりつけ医としているご利用者が殆どで、月2回の定期往診や、緊急時には夜間や休日の対応も可能となっている。また主治医からの紹介による専門医の受診は職員が付き添い支援している。週1回歯科往診があり必要時には受診できる体制となっている。	
			(外部評価) 併設施設の嘱託医を希望してかかりつけ医にしている利用者が多く、月2回の定期往診を受けている。また、併設施設の看護職員と医療連携を取っており、かかりつけ医との関係も良好である。専門医の受診が必要な場合は、情報提供票を作成し持参したり、受診には介護職員が同行し日常生活などの情報を医師に伝えられるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週1回併設の特養看護師によるバイタル測定や医療面に関する助言やアドバイスももらっている。看護師とは24時間連絡が取れ、医療連携の体制を整えている。またカンファレンスにも看護師が参加し、医療面からの視点をプランに反映している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはご家族同席のもと必要な情報を伝え、また退院時には医療連携室を通じて入院時の様子や退院後の生活における注意事項等の情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や看取りの指針を定め、入居時にその説明を行い同意を頂いている。毎月看取り委員会を開催し、重度化への対応や看取りの指針、マニュアルをもとに、ご本人やご家族の意向を確認しながら、医師、看護師、職員が連携し安心して最期を迎えられるような支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 利用者1名の看取りを先月終えたばかりであり、穏やかに家族や職員が看取ることができたようである。家族がしんどい思いをしないような配慮について、職員間で話し合いを行っており、居室に寝泊まりできるようなソファを置くなどしている。管理者は、職員間での事前の勉強会等を行い、職員の不安も取り除くことができたと考えている。今後は、看取り後の家族の悲しみに対するケアも考えており、職員の気持ちも尊重しながら看取りに活かしていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成し周知徹底を図っている。今後定期的に応急手当や救命処置の研修を取り入れ、実践している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署も参加し火災の避難訓練を実施。その他に原子力災害、土砂災害の非難訓練も行っている。また県が実施した原子力防災訓練には職員が参加したが、実際に避難するためには地域との協力体制が必要だと実感している。原子力災害時の避難受け入れ先（東温市）との提携を結んでいる。 (外部評価) 年2回の避難訓練、原発事故や土砂災害の避難訓練も消防署や地域住民も参加し実施している。地域がら原発事故では風向きで避難先が変わる可能性が高いため、管理者は、多方面での避難方法を確認していく必要があると考えており、地域住民の協力の重要性を感じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩に対して敬う気持ちを忘れずに、常に理念にある笑顔と感謝を大切にしながら言葉かけや対応を行っている。 (外部評価) 利用者は人生の先輩である、ということ意識しながら日頃の声かけを行っている。地域包括支援センター職員を講師に招き、「不適切ケア」についての研修を行い日々の支援を振り返っている。管理者は日頃から「声かけがこれでいいのか」と感じており、今後は、職員間での疑似体験や研修などを含めた勉強の機会を増やしたいと思っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者が答えやすいような質問の仕方をしたり、表情を読みとったりとその方に応じた声かけを行い自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせた暮らしができるよう努めているが、時間を気にしてしまうこともある。ご本人の意向を尊重して、希望されたときのみ行事、レク等へ参加していただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えの時は好みの洋服を選んでもらったり、誕生日には洋服をプレゼントしている。出張美容室は三カ所あり、それぞれ好きな美容室でカットやパーマをかけておしゃれを楽しんで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の役割として、食事作りや後片づけを分担して行っている。また月2回の行事食があり、厨房で作った季節感あふれる食事を提供している。苦手な献立は代替えにて提供し、食事を楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 栄養委員会で1年分のメニューを決めており、日々のメニュー表は利用者が手書きをしており、一言感想を付け加えるようにしている。食事前には、早口言葉を言ったり、嚥下体操を行ったりと美味しく安全に食事を楽しむことができるよう配慮している。箸や湯飲みは自前のものを使用し、野菜の下ごしらえや食後の後片づけなど、できることは利用者が行っている。また、月1回は三崎漁協から新鮮な刺身を届けてもらっており利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量の確認を行い、食事量が少ない時には好きなものを提供している。食べられないものは代替えを提供している。毎月介護力向上委員会を開催し水分1日1500cc摂取を目標に掲げ、好みの飲み物やこまめな水分補給で水分量を確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分でできる方は声かけを行っている。介助の必要な方でもできるところはご自分で行っていただきできないところを介助しているが、毎食後はできないこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を行っているが、タイミングが掴めずにパット内に失禁することもある。そのような方にはケアプランにパットの使用を減らす目標を掲げ、トイレ誘導への意識づけを行っている。 (外部評価) 入居時から排泄パターンを把握するようにしており、時間で排泄誘導を行っている。紙パンツ使用者は各ユニット3名ずつで、他の利用者はパットを使用しており、夜間のみ転倒防止のためポータブルトイレを使用している利用者も4名程度いる。共用のトイレは広々としており、出入り口のドアは半自動式で、手すりも完備され利用者が負担なく利用できるようになっている。また、排泄で失敗があってもトイレ内にシャワー室を設けており、利用者が羞恥心を感じないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表により排便の有無、量や状態も記入している。介護力向上の取り組みに基づき、食事、水分、運動に留意するとともに、食物繊維ファイバーや乳酸菌飲料を飲用し、できるだけ下剤に頼らず自然排便できるよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 同性介助を基本とすると勤務によっては入浴が実施できなくなるので、同性、異性を問わず定期的な入浴を行っている。また入浴を嫌がる方には、声かけの仕方を工夫しながら入浴していただいている。 (外部評価) 浴槽は檜風呂で、清潔を維持するため全員の入浴終了後に、毎回檜を乾燥させている。脱衣場にはくしや爪切りなどを殺菌するボックスを設けており、浴槽台や手すり、足浴器も完備されている。入浴は基本週2回であるが、それ以上の希望があれば対応できるようになっている。また、利用者は全員女性なので基本的には同性が入浴介助するよう利用者へ配慮をしているが、入浴を好まれない利用者には、「可愛い服があるよ。」等その人にあった工夫した声かけを行い入浴支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースに合わせて休みたい時に、休息が取れるようにしている。居室に限らず、ご本人の落ち着ける場所で休んでいただけるよう配慮し、リズムを大切に、安心して休息できるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者の服用している薬についてファイルを作成し、種類、作用、量について理解できるようにしている。また症状の変化は、ケース記録に詳細に記入している。誤薬や飲み忘れを防ぐため、マニュアルに従い2名でチェックし配薬している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 音楽番組を録画し、好きな時間に見ていただいたり、童謡のCDを流しながらみんなで一緒に歌ったりして楽しく過ごせるよう支援している。またホールや屋外への散歩等で気分転換が図れるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的に地域の行事には参加している。ご本人の希望を聞き出すのが難しいが、何気ない日常の会話の中を通じて、思いや訴えの把握に努め個別ケアの実践に取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 散歩カードを作成し、その人にあった運動ができるよう支援している。初詣や近くの廃校の運動場を活用した季節感を感じることでできる鯉のぼり等のイベントや、紫陽花見学にも出かけたりしている。また、利用者の知人が利用しているデイサービスを利用したり、ふるさと訪問を行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居時に現金は預からないことを説明し同意していただいている。外出時には、立て替え払いで支払いをしている。欲しい物や必要な物は職員が代わりに購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人より電話をかけたいと希望がある時には、出来る限り対応している。また毎月発行している広報の伝言板にご本人からご家族へのメッセージを書いていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>適切な温度や湿度調整を心がけたり、花やディスプレイで季節感を取り入れ、居心地の良い空間作りに努めている。状況に応じてトイレや居室が解るように目印を掲示したり、自宅付近の写真を貼るなどして混乱しないよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>吹き抜けの廊下を隔て2ユニットに分けられており、中央にはスタッフルームが設けられ明るく広い空間を感じることができる。フロアには、利用者が活かした季節感のある活花があり、廊下の壁には写真、俳句、役割分担表、ニコニコ通信、日めくりカレンダーが掲示されている。各所にはソファが置かれ気軽に休憩のできるスペースとなっており、畳コーナーも設置されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれが思い思いの場所で過ごせるよう、ソファを置くなどして工夫を行っている。気のあったご利用者同士で席を隣にしたり工夫しているが、トラブルになることもある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時にはご家族に依頼して、ご本人にとって大切なご家族の写真や家具等、できるだけこれまで使用していた物を持ち込んでいただき居心地よく過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、エアコン、洗面台、鏡、クローゼット、床頭台、時計、湿度計、温度計が備品として設置されており、トイレ付きの居室もある。訪問した部屋には、子供の頃から結婚後までの白黒写真が掲示されおり、利用者の思いが感じとれる雰囲気があった。また、居室入口には利用者自身が記入した目標や言葉、利用者や職員が作成した暖簾や家族が持参した暖簾がカラフルに飾られており、居心地よく過ごせるようにとの配慮が感じられた。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの「わかること」「できること」をカンファレンスやユニット会で話し合い、今ある力を最大限發揮して可能な限り自立した生活が送れるよう支援している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893700025
法人名	社会福祉法人伊方社会福祉協会
事業所名	グループホーム三崎つわぶき荘
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町三崎4414番地1
自己評価作成日	平成27年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三崎つわぶき荘の前には宇和海が広がり、晴れた日には九州を遠望できます。ホールに座りのんびりとこの景色をながめていると自然と心が落ち着いて、ご利用者の大好きな癒しの空間となっています。また2階に特養を併設しており四季折々の行事やレク、クラブを合同で行い、楽しく過ごしていただいています。
施設全体として、介護力向上に取り組んでおり食事、運動、排泄の基本のケアを行うことで、認知機能の向上を図りできるだけ自立した生活を続けることができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年目を迎える地域密着型特別養護老人ホームに併設された事業所である。日本一細長い半島の佐田岬の小高い丘の上に建設され、海風が心地よく吹き通る位置に立地している。事業所からは瀬戸内海を一望でき晴れた日には九州を遠く望むこともできる。事業所は、愛媛県老人福祉施設協議会に加入しており、専門職としての知識に裏付けされた介護を実施できるよう努力している。管理者、職員は利用者の自立した日常生活が継続できるよう介護力向上をめざし、基本的ケアである食事、運動、排泄を重視し、認知機能向上に力を入れ支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム三崎つわぶき荘

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 井上 祥子

評価完了日 平成27年 7月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設前に全職員で考えた理念を見直しして、新しい理念を作り、両ユニットの共有スペースに掲示している。『笑顔』『感謝』を大切にして一人ひとりに合ったケアを実現できるように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 認知症介護実践リーダー研修を受講した職員から理念の作り直しの提案があり、「穏やかに」「健やかに」「笑顔と感謝を忘れずに」を新しい理念として2つのユニットをつなぐ共用スペースに、利用者職員とも遠くからでも見えるよう大きな字で掲示し、介護力向上を目指し実践に生かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 毎月のホーム喫茶、茶道クラブ、生け花クラブでは地元ボランティアの方々に協力していただき実施している。運動会や文化祭、秋祭り等の地域行事に参加したり、高校生の職場体験や小中学生の来荘等を通じて交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 事業所内は、地元のお寺の奥さんや主治医の奥さんが茶道クラブのボランティアとしての活動であったり、また、玄関先には地元のボランティアで構成の活花クラブの活花が多数飾られており、地域の保育園の散歩の休憩所としても利用されている。また、小・中・高校生合同で行われる地域行事に参加したり、秋祭りは職員も地域住民の一員として参加しており、フェリー乗り場で行われる神輿のお練りは秋祭りの恒例で事業所にも寄ってもらっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 伊方町からの依頼を受け、介護相談員の研修会に『介護力向上の取り組み』と題して出前講座を行った。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的な運営推進会議を開催し、事業所の取り組みを報告したり、実際に行事等に参加してもらい、意見をいただいている。また、推進会議の委員に講師を依頼して認知症の勉強会を行った。	
			(外部評価) 運営推進会議に他の事業所の方に参加してもらうなど交流が図られており、行事計画や介護の取り組み方など参考になっている。参加者に愛媛県認知症介護実践リーダー研修の講師がいるため、会議の中で認知症の勉強会等もできている。また、今月は職員も参加し地域包括支援センター職員による「不適切ケア」の勉強会も行っており、運営推進会議が職員の資質向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事故、ヒヤリハットは全て伊方町に報告し、助言をいただいている。運営推進会議の委員としてアドバイスを受けたり、疑問点等の相談をしている。また包括支援センターと連携を取り、ご利用者のこれまでの生活の様子などの情報提供をしていただき、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議参加者に町の担当者がおり、馴染みの関係はできている。困難事例などは、町担当者からあらかじめ今までの生活歴や利用者の家族の考え方などのアドバイスを詳しく教えてもらうなど、連携が取れており良好な関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止虐待防止委員会でチェックリストを作成し、毎月全職員が記入することにより、身体拘束をしないケアについての理解を深め実践に繋げている。	
			(外部評価) 身体拘束については、職員勉強会を開き身体拘束をしないケアの周知徹底ができており、玄関は手動で出入りは自由である。また、管理者は拘束廃止虐待防止委員会で作成したチェックリストにより、日頃から職員が身体拘束をしないケアができているか確認をしており、実践に向けての取組みはできている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会、ユニット会を通じて介護をする上で、注意しなければならないことを話し合い、個々の介護を見つめ直している。また7月には伊方町の職員に依頼し『不適切ケアについて』と題して研修を行う予定である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の研修は実施していない。今後は講師を迎えて施設内研修を行い、知識を深める機会としたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前の調査時や契約時に時間を取り、ご家族、ご本人に対して説明を行い、入居の意向を決めていただいている。入居前にセンター方式を使用し、ご家族から情報を得ており、それをもとに入居後の生活を説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話等で日頃の様子を伝えたり、ご家族の意見や希望を伺っているが意見や希望は少ない。また正面玄関にご意見箱を設置している。 全員に家族会の会員になっていただき、年1回家族会を開き、ご意見を伺う機会としている。	
			(外部評価) 家族会は、併設の特別養護老人ホームと合同で年1回開催されている。運営推進会議には、利用者家族もメンバーとして参加しており、意見を言いやすい環境となっている。また、訪問調査当日も利用者の夫が面会に来て玄関ホールで新聞を読んでおり、日常の面会も家族からの意見が聞ける場となっている。玄関に意見箱を設置し家族からの意見等収集をしているが、現在のところ特に意見はないので、管理者は、利用者や家族からもっと意見や希望を引き出すことができるよう工夫をしていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回個人面談を行い、職員の思いや意見を聞いている。また職員会、リーダー会、各種委員会、ユニット会を開催し、様々な視点での意見や提案を聞き、反映させている。 (外部評価) 施設長と管理者は、年2回の個人面談で職員からの意見や希望を聞いている。また、職員は日常業務を振り返るために「チャレンジカード」を半年に1度記入し、管理者と一緒に確認している。職員が研修で学んだ支援内容などについては、職員会で提案の上業務に取り入れており、活花クラブは職員の意見により開始されたものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 希望者には正職員登用の機会を設け、意欲を持って働けるような環境の整備を行っている。また勉強会や研修会への参加を積極的に促し、向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修の情報を公開し、希望する研修に参加できるようにしている。また研修終了後は研修報告を行い、職員への周知を行っている。また職員の段階に応じてあらゆる機会をOJTとして利用し人材育成を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内事業所相互の運営推進会議へ参加し、交流や情報交換を行っている。また7月にはそうめん流しの行事に他事業所を招待する予定である。今後も事業所間の交流を前向きに検討している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面談時にご本人やご家族の思いを聞き取っている。また可能な方にはご家族に、センター方式を記入してもらい、思いや要望を伝えていただいている。また入居後は、日頃の様子をよく観察し、しっかり向き合い、ご本人の思いに耳を傾け、良い関係を築けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が入居前に見学に来られた際には、全職員がその場に立ち会い、困っていること、不安なこと、要望等について聞き取りを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の面談や担当ケアマネージャーからの情報により柔軟に対応している。入所申込時等に状況に応じて相談窓口（包括支援センター）の紹介や他のサービス利用について情報提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者と一緒に洗濯物干し、食事作り、お盆拭き等出来ることを手伝っていただき、共に暮らしているという気持ちで日々の関係を築いている。しかしご利用者間でトラブルが生じることもある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者がご家族に会いたい時には電話で話をしたり、面会にきていただくよう依頼している。毎月の広報でご利用者の生活の様子を報告すると共に、ご家族からも情報をいただきながら、ご利用者を一緒に支えるよう協力関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の希望に応じて、入居前に利用されていたデイサービスを訪問し、ご家族や知人との交流を図っている。また地元の行事には積極的に参加している。	
			(外部評価) 毎月3軒の美容院から出張美容に来てもらっている。またふるさと訪問として、今まで通っていたデイサービスを利用したり、受診時には職員と一緒に自宅に立ち寄りしたりしている。他にも音楽療法を週1回、活花クラブ、茶道クラブ、喫茶を月1回実施しており、地域の方もボランティアで参加している。日頃から介護相談員や地元の方が訪問されゆっくり話しをされるなど、地域及び馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士で口論になることもあるし、居場所がなく歩き回る方もいる。ご利用者同士での関係作りが困難な場合は、意図的に職員が関わり、場面転換等を行い状況に応じた対応を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 殆どの退所者が法人内の特養へ入居されている。これまでの生活の様子や介護方法等を詳しく伝え、継続した支援が行えるよう連携をとっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話などから本人の思いや希望、意向の把握に努めている。対応が困難な場合は、24時間シートを活用し様々なサインを見つけ出せるよう努めている。 (外部評価) 入居時にセンター方式の24時間シートに記入してもらい、家族から思いや暮らし方の希望を聞いて把握している。入居後も面会時や電話等により聞き取りした内容は、事業所独自の調査票に記入し職員間で共有している。日常的に利用者の話には耳を傾けるようにしており、「家に帰りたい、子供が待っている。」と言われる利用者等に対しては、職員が利用者の気持ちを尊重し対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の調査を活用し、その人の生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、ご本人の意向に添った支援を行えるよう努めている。また入居後は、日々の会話を通じてこれまでの生活の様子を伺い、馴染みの暮らしを提供できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録、申し送り、連絡ノート、モニタリング等を使用し、職員間での情報の共有と連携を図り現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) モニタリングを行うと共に、面会時や電話にてご家族の要望を伺っている。またご本人と話をしたり、普段の生活の中での課題について話し合い、ケアプランを作成している。毎月の受診時に主治医から助言を頂き、ケアに活かしている。ご家族の希望や意向を聞いているが、特にないと言われる方が多く課題である。</p> <p>毎月の状況等をにこにこ通信に掲載のうえ発送し、家族に喜ばれている。介護計画を作成する際には、利用者、家族、計画作成者、介護職員、栄養士とカンファレンスを行うようにしているが、利用者や家族からは「希望は特にない」「今までよい」「満足している」といわれることが多くなっており、計画作成者は「特にない」と言われることが課題であり打開策の必要性を感じている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) ご利用者の日々の様子、ケアの実践等できる限り、ケース記録に詳しく書く事で、職員間での情報の共有ができており、介護計画の見直しの際に活かすようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 買い物やドライブといった屋外活動があまり出来なかった。今後は外に向けた活動を柔軟に行いたい。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域の訪問美容サービスや茶道クラブ、生け花クラブ等地域の方達と協働し様々な行事を行っている。また地域の催し物の情報を得て参加している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 特養の嘱託医をかかりつけ医としているご利用者が殆ど で、月2回の定期往診や、緊急時には夜間や休日の対応 も可能となっている。また主治医からの紹介による専門 医の受診は職員が付き添い支援している。週1回歯科往 診があり必要時には受診できる体制となっている。 (外部評価) 併設施設の嘱託医を希望してかかりつけ医にしている利 用者が多く、月2回の定期往診を受けている。また、併 設施設の看護職員と医療連携を取っており、かかりつけ 医との関係も良好である。専門医の受診が必要な場合 は、情報提供票を作成し持参したり、受診には介護職員 が同行し日常生活などの情報を医師に伝えられるよう配 慮している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回併設の特養看護師によるバイタル測定や医療面に 関する助言やアドバイスをもらっている。看護師とは2 4時間連絡が取れ、医療連携の体制を整えている。また カンファレンスにも看護師が参加し、医療面からの視点 をプランに反映している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはご家族同席のもと必要な情報を伝え、また退 院時には医療連携室を通じて入院時の様子や退院後の生 活における注意事項等の情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や看取りの指針を定め、入居時にその説明を行い 同意を頂いている。毎月看取り委員会を開催し、重度化 への対応や看取りの指針、マニュアルをもとに、ご本人 やご家族の意向を確認しながら、医師、看護師、職員が 連携し安心して最期を迎えられるような支援に取り組ん でいる。 (外部評価) 利用者1名の看取りを先月終えたばかりであり、穏やか に家族や職員が看取ることができたようである。家族が しんどい思いをしないような配慮について、職員間で話 し合いを行っており、居室に寝泊まりできるようなソファ を置くなどしている。管理者は、職員間での事前の勉強 会等を行い、職員の不安も取り除くことができたと考え ている。今後は、看取り後の家族の悲しみに対するケア も考えており、職員の気持ちも尊重しながら看取りに活 かしていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成し周知徹底を図っている。今後定期的に応急手当や救命処置の研修を取り入れ、実践している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署も参加し火災の避難訓練を実施。その他に原子力災害、土砂災害の非難訓練も行っている。また県が実施した原子力防災訓練には職員が参加したが、実際に避難するためには地域との協力体制が必要だと実感している。原子力災害時の避難受け入れ先（東温市）との提携を結んでいる。 (外部評価) 年2回の避難訓練、原発事故や土砂災害の避難訓練も消防署や地域住民も参加し実施している。地域がら原発事故では風向きで避難先が変わる可能性が高いため、管理者は、多方面での避難方法を確認していく必要があると考えており、地域住民の協力の重要性を感じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩に対して敬う気持ちを忘れずに、常に理念にある笑顔と感謝を大切にしながら言葉かけや対応を行っている。 (外部評価) 利用者は人生の先輩である、ということ意識しながら日頃の声かけを行っている。地域包括支援センター職員を講師に招き、「不適切ケア」についての研修を行い日々の支援を振り返っている。管理者は日頃から「声かけがこれでいいのか」と感じており、今後は、職員間での疑似体験や研修などを含めた勉強の機会を増やしたいと思っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者が答えやすいような質問の仕方をしたり、表情を読みとったりとその方に応じた声かけを行い自己決定できるように働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせた暮らしができるよう努めているが、時間を気にしてしまうこともある。ご本人の意向を尊重して、希望されたときのみ行事、レク等へ参加していただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えの時は好みの洋服を選んでもらったり、誕生日には洋服をプレゼントしている。出張美容室は三カ所あり、それぞれ好きな美容室でカットやパーマをかけておしゃれを楽しんで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者の役割として、食事作りや後片づけを分担して行っている。また月2回の行事食があり、厨房で作った季節感あふれる食事を提供している。苦手な献立は代替えにて提供し、食事を楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 栄養委員会で1年分のメニューを決めており、日々のメニュー表は利用者が手書きをしており、一言感想を付け加えるようにしている。食事前には、早口言葉を言ったり、嚥下体操を行ったりと美味しく安全に食事を楽しむことができるよう配慮している。箸や湯飲みは自前のものを使用し、野菜の下ごしらえや食後の後片づけなど、できることは利用者が行っている。また、月1回は三崎漁協から新鮮な刺身を届けてもらっており利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量の確認を行い、食事量が少ない時には好きなものを提供している。食べられないものは代替えを提供している。毎月介護力向上委員会を開催し水分1日1500cc摂取を目標に掲げ、好みの飲み物やこまめな水分補給で水分量を確保できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分でできる方は声かけを行っている。介助の必要な方でもできることはご自分で行っていただきできないところを介助しているが、毎食後はできないこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を行っているが、タイミングが掴めずにパット内に失禁することもある。そのような方にはケアプランにパットの使用を減らす目標を掲げ、トイレ誘導への意識づけを行っている。	
			(外部評価) 入居時から排泄パターンを把握するようにしており、時間で排泄誘導を行っている。紙パンツ使用者は各ユニット3名ずつで、他の利用者はパットを使用しており、夜間のみ転倒防止のためポータブルトイレを使用している利用者も4名程度いる。共用のトイレは広々としており、出入り口のドアは半自動式で、手すりも完備され利用者が負担なく利用できるようになっている。また、排泄で失敗があってもトイレ内にシャワー室を設けており、利用者が羞恥心を感じないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表により排便の有無、量や状態も記入している。介護力向上の取り組みに基づき、食事、水分、運動に留意するとともに、食物繊維ファイバーや乳酸菌飲料を飲用し、できるだけ下剤に頼らず自然排便できるよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 同性介助を基本とすると勤務によっては入浴が実施できなくなるので、同性、異性を問わず定期的な入浴を行っている。また入浴を嫌がる方には、声かけの仕方を工夫しながら入浴していただいている。	
			(外部評価) 浴槽は檜風呂で、清潔を維持するため全員の入浴終了後に、毎回檜を乾燥させている。脱衣場にはくしや爪切りなどを殺菌するボックスを設けており、浴槽台や手すり、足浴器も完備されている。入浴は基本週2回であるが、それ以上の希望があれば対応できるようになっている。また、利用者は全員女性なので基本的には同性が入浴介助するよう利用者へ配慮をしているが、入浴を好まれない利用者には、「可愛らしい服があるよ。」等その人にあった工夫した声かけを行い入浴支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のペースに合わせて休みたい時に、休息が取れるようにしている。居室に限らず、ご本人の落ち着ける場所で休んでいただけるよう配慮し、リズムを大切に、安心して休息できるよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者の服用している薬についてファイルを作成し、種類、作用、量について理解できるようにしている。また症状の変化は、ケース記録に詳細に記入している。誤薬や飲み忘れを防ぐため、マニュアルに従い2名でチェックし配薬している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 音楽番組を録画し、好きな時間に見ていただいたり、童謡のCDを流しながらみんなで一緒に歌ったりして楽しく過ごせるよう支援している。またホールや屋外への散歩等で気分転換が図れるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的に地域の行事には参加している。ご本人の希望を聞き出すのが難しいが、何気ない日常の会話の中を通じて、思いや訴えの把握に努め個別ケアの実践に取り組んで行きたい。 (外部評価) 散歩カードを作成し、その人にあった運動ができるよう支援している。初詣や近くの廃校の運動場を活用した季節感を感じることでできる鯉のぼり等のイベントや、紫陽花見学にも出かけたりしている。また、利用者の知人が利用しているデイサービスを利用したり、ふるさと訪問を行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居時に現金は預からないことを説明し同意していただいている。外出時には、立て替え払いで支払いをしている。欲しい物や必要な物は職員が代わりに購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人より電話をかけたいと希望がある時には、出来る限り対応している。また毎月発行している広報の伝言板にご本人からご家族へのメッセージを書いていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 適切な温度や湿度調整を心がけたり、花やディスプレイで季節感を取り入れ、居心地の良い空間作りに努めている。状況に応じてトイレや居室が解るように目印を掲示したり、自宅付近の写真を貼るなどして混乱しないよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 吹き抜けの廊下を隔て2ユニットに分けられており、中央にはスタッフルームが設けられ明るく広い空間を感じることができる。フロアには、利用者が活けた季節感のある活花があり、廊下の壁には写真、俳句、役割分担表、ニコニコ通信、日めくりカレンダーが掲示されている。各所にはソファが置かれ気軽に休憩のできるスペースとなっており、畳コーナーも設置されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれが思い思いの場所で過ごせるよう、ソファを置くなどして工夫を行っている。気のあったご利用者同士で席を隣にしたり工夫しているが、トラブルになることもある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時にはご家族に依頼して、ご本人にとって大切なご家族の写真や家具等、できるだけこれまで使用していた物を持ち込んでいただき居心地よく過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室には、エアコン、洗面台、鏡、クローゼット、床頭台、時計、湿度計、温度計が備品として設置されており、トイレ付きの居室もある。訪問した部屋には、子供の頃から結婚後までの白黒写真が掲示されおり、利用者の思いが感じとれる雰囲気があった。また、居室入口には利用者自身が記入した目標や言葉、利用者や職員が作成した暖簾や家族が持参した暖簾がカラフルに飾られており、居心地よく過ごせるようにとの配慮が感じられた。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの「わかること」「できること」をカンファレンスやユニット会で話し合い、今ある力を最大限発揮して可能な限り自立した生活が送れるよう支援している。</p>	